令和３年度（2021 年度）事業報告

特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

2021 年度は、認定 NPO 法人となって実質的１年目の年として着実に事業を進めることができた。そして、北九州市における存在感を大きくした年度となったといえる。時には力量を超えるチャレンジもあったが、成果を上げることができた。これは、さまざまな連携先の拡大・強化が要因と考えられる。

また、2020 年初めから全世界的に、また私たち個々人の暮らしに大きな影響を与えたコロナウィルス感染症は、2021 年度もその影響は低減化しなかった。経済的な影響が長期化し、職を失ったり、離婚まで追い詰められたり、困窮・孤立が深刻化し、暮らしの基盤を深くむしばんでいった感がある。

一方、コロナ禍が深刻化したことが、フードバンクへの注目をあつめることになった。さまざまな助成金、補正予算が提起されたと同時に、これまでフードバンクを知らなかった人たちにも認知され、支援を求める人も増えていった。

北九州市との連携において、要支援者へのアウトリーチとしてこれまで求めていたライフアゲインの情報を行政から提供してもらうということが実現した。9 月市議会における市長答弁を契機として、約 1 万人の児童扶養手当受給者へのチラシ配布と、フードバンクに必要な倉庫の提供に、市行政として取組がスタートした。

また、北九州市の「令和 3 年度困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業」を受託し、相談活動を進化させ事業化へのスタートを切った。この分野においては、健和会友の会、NPO 法人にこりとの連携も進み、相談への対応内容も充実してきている。

企業・団体との連携も拡大した。SDG s の取組として企業が積極的にフードドライブを開始した。イオン九州はこれまでの活動を広げ全店舗で実施することとなった。西日本シティ銀行では、北九州エリアの全支店職員を対象としたフードドライブが、3 ヶ月に一度行われるようになった。他にも、株式会社ジーエータップ、無印良品、株式会社ゆめマート北九州、（株）イズミなどの企業が、これまでの活動団体であるギラヴァンツや大英産業株式会社に加わった。

年末に行った「お腹いっぱい大作戦」の箱詰め作業、NPO 法人チャリティーサンタから寄贈された絵本の発送作業に、東京三菱 UFJ 銀行、九州電力北九州支社、久原本家、サンキュードラック、第一生命保険株式会社、西部毎日広告社、健和会、九州共立大学などの組織的な参加があった。

また、10 月から月に 1 回の頻度でエフコープ生活協同組合西湊支所を借りて、子ども食堂や福祉施設に対してのフードパントリーを開始し、毎月約 30 団体の受取り参加があり、食品ロス削減が進んでいる。

地域との連携も進んだ。11 月よりスタートした子ども食堂「ちゅうおうまち食楽福亭（たらふくてい）」は、事務所を置く八幡中央町商店街、まちづくり協議会、九州電力北九州支社などによる実行委員会形式で運営を続けている。この子ども食堂

を中心としてさらに地域づくりの輪が広がっている。

2021 年度を移行期と定めた無料学習塾は、NPO 法人ユネスコ維新隊と連携することとなった。ライフアゲインの学習支援事業として行っていたオンリーワン塾は 2021 年度で終了し、2022 年度 4 月からステップアップ塾 SUJ として始動させることとなった。SUJ は東京の事務局と運営システム、塾講師をオンラインで共有している。北九州市においても、小倉高校、東筑高校などの高校生がボランティア講師として登録し、小中学生のグループ指導にあたる。

当法人と姉妹組織である一般社団法人ライフアゲインが運営する放課後等デイサービス「プレシャス ONE」との連携活動もひろがった。もがるかキッズクラブへの参加、ライフアゲイン事務所３階でのプログラミング教室など、プレシャス ONE の利用者にも喜ばれている。

【フードバンク事業】

2021 年度は、食品取扱量が 2020 年度の 122%となった。これは、冒頭に記載したように、社会問題が深刻化するなかでフードバンクに関心が集まり、企業からの寄贈量が増えたことによる。

「夏・冬お腹いっぱい大作戦」での配布先が 1300 世帯と昨年に比べて倍以上になったこと、継続食料支援先が年度末には 105 世帯とコロナの影響などで減少しなかったこと、エフコープ生活協同組合支所でのフードパントリー実施などにより、利用量・受取り量が増えた。

もう一つの要因として、事業基盤が充実してきたことがあげられる。10 月には新たに倉庫を賃借し、カゴ台車数も増加した。2 月には、フォレストホールディング（50 円倶楽部）より、リフト付きの 2 トントラックの寄贈があり、受取能力、配布能力の増強に寄与している。

そして、家庭からの食品ロス受入れとしてフードドライブが市内各地で定期的に開催されるようになったことも、取扱量増加の要因として挙げられる。

	2020 年実績	2021 年度計画	2021 年実績
活動費	25, 115, 330 円	27, 330, 660 円	31, 556, 678 円
食品取扱量	90. 5 トン	100 トン	110. 1 トン
食品提供企業数	158 社･団体	200 社･団体	173 団体
食品受取り施設	121 箇所	130 箇所	137 箇所
子育世帯食料支援数	91 世帯	100 世帯	105 世帯
子育世帯支援総数	218 世帯	280 世帯	373 世帯

◆フードバンクの基盤整備と機能強化

食品ロス削減と食品を必要な方につなぐフードバンク事業は福岡県フードバンク協議会や近隣のフードバンク及び子ども食堂ネットワーク北九州などと連携して、食品配布､支援の活動が強化され、寄贈食品の確保量が増加した。

休眠預金等助成事業、ＷＡＭ助成事業として、フードバンク事業の資材を充実させることができた。

衛生管理と食品品質保証の意識づくりや食品廃棄量の削減のため、賞味期限の確認の取り組みを強

め、倉庫の棚などの配置の見直しをすることで倉庫管理の改善につながった。

◆食品寄贈企業・団体

福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、全国子ども食堂支援センター“むすびえ”や北九州市と協同して食品提供企業の開拓を行った。コロナ禍により学校給食協会などから野菜を含む給食関連食品の寄贈や防災用非常食の入れ替え時における寄贈品が増加した。SDGs の企業への広まりから参加団体も増えた。

◆フードドライブ：SDGs の取組として、企業からの自主的な取組が広がり、協力団体の拠点箇所が増加した。イオン九州 21、西日本シティ銀行 42、エフコープ生協７、イズミ（株）６、株式会社ゆめマート４など、全体で 94 拠点となった。

		拠点数	キロ数
２０１７年度	市内一斉フードドライブの集計	３１	８７６
２０１８年度		３２	１１５０
２０１９年度		２０	４９８
２０２０年度		１７	９１９
２０２１年度		２６	８９９
２０２１年度	全体の集計	９４	５５７６

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
フードバンク事業	食品関連事業者及び個人から余剰食料を回収し、提供された食品を社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供する。 実績数…110 トン	通年	全国	30 人	145 施設 105 世帯	14,209
	食品提供企業を開拓するために、福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、全国子ども食堂支援センター”むすびえ”や北九州市と共同して企業開拓する。 実績数…173 社			5 人		
	フードドライブを実施し、提供された食品を社会福祉施設及び生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体及び生活困窮者個人に提供している。 ・市内一斉フードドライブ（9 月、1 月） ・企業などによる自主的なフードドライブ ・常設のフードドライブ拠点数も増加		市内	12 人		

【ファミリーサポート事業】

子育て世帯への継続した食料支援や緊急食料支援を行っているが、食料支援を入り口にして「つながり支援チーム会」を中心に要支援者、要支援世帯にヒアリングを行い、また食料支援が終了した世帯に対しても傾聴、相談活動を行い必要に応じて連携団体につなげ、共同して包括的な支援を行ってきている。

◆継続的な食料支援世帯

要望のある世帯には基本的に 3 ヶ月～6 ヶ月継続して食料支援を行っている。2019 年度末には 46 世帯だった継続支援世帯が 2020 年度に入って一気に増え 100 世帯を超えることもあった。子育て世帯への臨時特別給付金の支給などがあり、若干落ち着いたように見えたが、80～90 世帯と高止まりの状態が続いている。

◆LINE 登録者数の増加（1800 人に）

ＷＡＭ助成事業として開設されたライフアゲイン LINE 公式アカウントの登録者数が、2020 年度末 460 名から 2021 年度末 1800 人へと大幅に増加した。その要因は行政窓口でのチラシ配布、北九州市と連携した児童扶養手当受給者１万世帯へチラシ配布したことが大きな要因である。

◆夏休みお腹いっぱい大作戦、届け！冬休みお腹いっぱい大作戦

2020 年度より、給食がない長期休暇に子育て世帯に向けて食品ボックスを届けている。夏休みにはサンキュードラッグ店舗での受け取りで 300 世帯、冬休みには 1000 世帯に宅配便で送ることができ、多くのボランティア、企業の協力をいただいた。冬休みの大作戦は北九州市の協力で約１万人の児童扶養手当受給者にチラシを配布させてもらった結果、昨年を上回る世帯に食品ボックスを届けることができた。宅配便の費用はクラウドファンディングで募り、目標 100 万円を上回る 1,226,004 円が集まり 122 人の方々の支援により目標達成となった。

◆絵本のプレゼント

LINE 登録時に絵本を希望された方々へ、クリスマスと新学期を迎える 3 月に合わせて約 800 冊の絵本を贈ることが出来た。この絵本は、NPO 法人チャリティーサンタとの連携での寄贈されたものである。

◆つながり支援チームの体制強化

要支援世帯の相談は月平均 35 件ぐらいになっている。つながり支援メンバーを増員することは出来なかったが、業務分担を変えるなどして取組んだ。行政や連携先につないで問題解決へのサポートができた。

◆今後の支援体制構築、担い手の確保のために、ホームスタート・やしの実の視察・研修を行った。

◆北九州市委託事業「令和３年度困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業」を受託し、相談活動を進化させ、家庭への訪問活動、行政手続きや病院への同行活動なども強化した。相談事業では、健和会友の会、NPO 法人にこりとの連携も進んだ。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
ファミリーサポート事業	つながり支援チームにより、食料支援を行っている子そだて世帯に対して、面談あるいは食料配布時の対話を通してニーズを把握。実情に合った支援につなぐ。	年中	市内	７人	北九州市内の子そだて要支援世帯	2,363
	行政及び社協との連携…いのちをつなぐネットワーク、子ども家庭相談コーナー、社協との連携を強化しスムーズな連携を実現する。			７人		
	LINE を活用したつながり支援を、情報提供や情報収集を充実させることで強化していく。			５人		
	長期休み前の食料配布（夏・冬休みお腹いっぱい大作戦）	７月 12 月		90 人		
	包括的支援に向けての連携	随時	県内	３人		

【地域子ども支援事業】

2021 年度よりファミリーサポート事業と分離させ、ライフアゲインの各事業の役割を明確化させた。子どもの養育支援の活動とて、身近な地域のなかで親子を孤立させないまちづくりを目的に、地域で子育て、みんなで子育てができるよう、子ども食堂を地域のプラットフォームと位置付けている。

◆子ども食堂の運営

- 尾倉っ子ホームの運営（皿倉小学校区）

  コロナの影響で制限のある状況になったが、子ども食堂を開催できないときはフードパントリーやお弁当の配布などに切り換えた。コロナ以前のような活動はできなくても、大学生のサポートを得て、毎月第２・４水曜日に開催している。

- ちゅうおうまち食楽福亭（たらふくてい）の運営

  11 月にオープンした八幡中央区商店街内の子ども食堂・通称「食楽福亭(たらふく亭)」は、雨天でも開催できるアーケード内で雨の心配もなく、広い場所で活動ができている。地域・企業・大学・NPO 等が一緒になって企画し、子ども祭りの雰囲気で開催されている。商店街の活性化も視野に入れて、毎月１回、土曜日に開催している。

◆フードパントリーにより応援食品の配布

コロナ禍により子ども食堂が開催できなかったことをきっかけに、子ども食堂を中心にフードパントリーが進んだ。また大学生を対象とした活動も行った。エフコープの支所を貸していただき子供食堂や福祉施設に食品をまとめて渡すことができるようになった。

◆オンリーワン学習塾からステップアップ塾へ

コロナ禍をきっかけにオンライン授業が一般的になり、ライフアゲインが運営する学習塾でも中学生対象に取り組んだ。東京のステップアップ塾と提携した無料学習支援（ステップアップ塾）北九州八幡教室を４月からのスタートを目指して準備を進め、「先生は勉強をさせる人ではなく、子どもたちの学びの伴走者」として寄り添い、自ら学ぶ心と自己肯定感を育てることを目標にしている。この塾では世帯収入によって月謝が決まり、無料で学習支援を受けることができる仕組みで行っている。

◆もがるかキッズクラブの開催

開かれた子供会活動として､自然体験や仕事体験などの校外活動の場として宗像市の協力農家「天縁ぼう」を拠点に季節ごとに企画を行った。コロナ禍で計画通りには開催できなかったが､子どもたちの笑顔が自然の中ではじけていた。

６月　田植え体験＆冒険村づくり
７月　海難救助訓練
８月　乗馬体験
９月　稲刈り（コロナの影響でスタッフのみ）
１２月　もちつき（コロナの影響でスタッフのみ））

◆君はかけがえのない宝物展

尾倉っ子ホーム、プレシャス ONE、ライフアゲインの連携施設、地域の子どもたちに自分の夢や好きなこと、大切なことを作品にしてもらい、3 会場で展示した。作品出品者数は 83 名、展示会場は、8 月北九州市民ギャラリー、9 月中央町商店街、10 月北九州市立八幡図書館であったが、8 月はコロナ緊急事態宣言のため会場利用は中止となった。そのため、無観客展示を行い、動画撮影を行って YouTube で視聴してもらえるようにした。作品だけでなく作品に添えられた子どもたち一人ひとりのメッセージが感動を呼んでいた。出品してもらった施設からは、毎年の開催を希望する声が届いた。

◆子そだて米プロジェクト

「地域で子育て、みんなで子育て」の思いを込めて､地域の生産者にお米の支援と子育て世帯との交流を呼びかけた。今後の広がりに期待している。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
地域子ども支援事業	子ども食堂の運営 ・尾倉っ子ホーム ・ちゅうおうまち食楽福亭 ・フードパントリー ・弁当配布	 月２回 月１回 随時 随時	八幡東区	40 人	約 500 人	3,776
	フードパントリー		市内	20 人	約 1400 人	
	学習支援　オンリーワン学習塾から無料学習塾ステップアップ塾へ移行した。	月・火・木・金	市内	30 人	20 人	
	もがるかキッズクラブ	通年	県内	15 人	60 人	
	君はかけがえのない宝物展	8、9、10 月	市内	12 人	約 1000 人	
	子そだて米プロジェクト	通年	県内	4 人	10 人	

【普及啓発事業】

ミッション実現のためには、ライフアゲインが社会の仕組みとして安定的に位置づけられることが必要である。信頼される法人として認知度を上げるために行動した。

◆講師派遣活動

2020 年度 WAM 助成事業として作成した「参加から学ぶ SDGs」を学習資料として SDG s 研修を広げた。

◆2020 年次報告書（サンクスレポート）、ニュースレターの発行

◆「届け！冬休みお腹いっぱい大作戦 クラウドファンディング達成のお礼とご報告」冊子発行

◆さまざまな研修活動…SDG s やフードバンク、フードドライブについて、さまざまな年代、団体の研修の講師として情報提供をおこなった。

◆スタディーツアー…コロナが少し下火になった時期に、修学旅行の一環として２高校、約 80 人を受け入れた。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
普及啓発事業	講演会・講師派遣 フードドライブ説明会など	随時	県内	5 人	約 500 人	1,588
	スタディーツアー	随時	市内	25 人	80 人	
	年次報告書「サンクスレポート」 発行	8 月	全国	5 人	1500 人	
	ニュースレター発行	4 月 11 月		10 人	3000 人	
	つなぐ書店と連携した古本による寄付	年中		3 人	不特定多数	
	届け！冬休みお腹いっぱい大作戦　クラウドファンディング達成のお礼とご報告	１月		5 人	2000 人	
	令和 3 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書「ライフアゲイン 広がる連携 強まる絆」	3 月		5 人	2000 人	
	ホームページ､SNS	年中	Web	8 人	不特定多数	
	フードドライブ、ちゅうおうまち食楽福亭、イベントなどの開催時の広報	毎月	八幡東区	3 人	1700 人	
	募金箱、フードドライブ設置	年中	市内	5 人	不特定多数	
	メディア掲載	随時	全国	3 人	不特定多数	